

## 普及活動の成果

様式6（左）

課 題 名	加工用たまねぎの単収向上対策	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	加工用たまねぎ生産者	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

### 【対象の概要】

佐世保市、平戸市、松浦市および佐々町の加工用たまねぎ生産者で構成される各生産部会。  
農家戸数：42戸（うち認定農業者19名）

### 【課題設定の背景】

県北地域では加工業務用野菜としてたまねぎの振興に取り組んできた結果、佐世保市、平戸市、松浦市および佐々町において面積が拡大したが、排水不良、べと病の発生および新規栽培者の経験不足等から単収は低い（平成29年産 県北：2.1トン）。

### 【活動目標】

県北地域の「加工用たまねぎ」の単収向上を目的として、圃場の排水対策（暗渠、明渠、高畝、稲刈り後の排水溝設置等）、生産者の栽培技術（土作り、育苗管理、適正施肥、適期定植、栽培管理）ならびに病害虫・雑草対策技術の向上を図る。

べと病等の重要病害虫対策については、生産者が地域一体となって取り組む意識の向上を図るとともに防除を適期に行うための情報提供を行う。

また、関係機関が連携して作付け推進活動に取り組み、新規栽培者の確保および既存栽培者の作付け拡大を図る。

### 【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

県北地域加工業用産地育成協議会産地部会や農機メーカーと連携し、産地部会担当者会（市町、JA、振興局）や排水対策機械の実演会開催を支援した。

### 【活動経過】

#### （1）指導チーム会支援

- ・JA、市町と担当者会を開催し、H30年産の実績を検討し、次の活動を実施した。
- ・北松・佐々の生産者に対して、JA・メーカーと連携し、排水対策の理解向上のための排水対策機械の実演会を行なった。
- ・べと病対策として、県北版のたまねぎ防除ローテーション表を作成し、たまねぎ生産者全戸に配布した。また、たまねぎ生産者へハガキを発送し、1次伝染株の抜き取り徹底と地域一斉防除実施を周知した。

#### （2）栽培管理指導

管内の加工たまねぎ生産者に対して、生理・生態に基づく栽培講習会や最新の試験研究結果を踏まえた病害対策研修会を開催した。JAと連携し、月に1回地区別に現地検討会を行い、栽培管理・病害虫防除対策を指導した。特に管理不足となりがちな生産者に対して個別巡回を行い、作業が遅れないよう支援した。

#### （3）メールによる情報提供

台風の事前事後対策、病害の発生状況、防除情報等をメール配信した。

#### （4）作付け推進

検討会等で、地区ごとに作付け推進を図った。苗が台風被害を受けた生産者には部会内での苗の支援を行った。



〈 作付け推進 〉



〈 病害対策研修 〉

### 【普及活動の成果】

#### (1) 単収向上

H30年産は4月からべと病が拡大したものの（県全体）、現地での指導や、メールによる防除指導により薬剤散布が徹底され、目標単収である5.5t/10aを超える生産者は2名となり、また、H29年産と比較して5t/10aを超える生産者の割合は13%から21%と向上した。

#### (2) 面積拡大

既存栽培者が計画面積を確実に定植し、面積を拡大する生産者もでてきたことから、H31年産の栽培面積は23.65haの見込み。

### 【対象の声】

現地検討会や個別での対応等よくしてもらっている。  
防除ローテーション表は参考になる。

### 【今後の課題】

#### (1) 加工用たまねぎの平均単収向上

関係機関と連携し、現地指導の中で追肥、除草、病害虫防除等基本管理の徹底を図る。4月以降の玉肥大期に降水量が少ない気象時には、かん水や畦間に水をためる等の対策を臨機応変に行う。  
高単収技術の整理を行ない、加工たまねぎ栽培での単収向上技術の検討を行う。

#### (2) 加工用たまねぎの栽培面積拡大

1戸当たりの栽培面積が小さく、加工たまねぎのメリットが活かしきれていないことから、栽培面積1ha以上の生産者から重点指導対象者を選定し、個別の課題を把握し、その課題解決に向け具体的な支援を行い、経営安定を目指す必要がある。

### 【成果の活用及び普及活動上の留意点】

関係機関と連携しながら、たまねぎの収量向上に向けた支援を行う。特に、適期管理ができていない生産者に対しては、適期に作業が行われるようこまめな巡回と、支援を行う。

### 【発表・参考資料】 なし